

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301017		
法人名	鈴鹿インター株式会社		
事業所名	さつきの里グループホーム		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町字北上ノ割2020-3		
自己評価作成日	平成 30 年 12 月 3 日	評価結果市町提出日	平成31年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JigvoCd=2470301017-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 12 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを日々心がけ、利用者様・職員が共に安心でき、笑顔あふれる生活が出来るよう支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鈴鹿インターからほど近く、かつてはさつきの苗木畑が広がっていた場所にあり、今年14年目を迎える。利用者は高齢化の傾向にありグループホーム本来の活動には制限があるが、比較的元気な利用者は市街の複合商業施設に出掛けては、外食やお茶、買い物などを楽しんでいる。病気で体調を崩したり、転倒で骨折をし入院を余儀なくされた利用者や家族が、できるだけ早く退院して戻ることを希望した時にも、それを快く受け入れる等、常に利用者本位の介護を目指している。また、利用者の日常の少しの変化も見逃さず、大事に至る前に医療につなげる等、管理者を筆頭に職員全員で温かい目配り気配りのできる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念ではない言葉の部分はあるが、理念の共有、実践にはつなげている	立ち上げ以来、理念の中の“人の尊厳を大切に”という部分を大切に利用者を支援してきた。一人ひとりの状態や思いに沿った個別ケアをする中で、疑問を感じたことには職員間で直ぐに検討し最も良いとする方法を共有し実践している。	職員の中に理念の精神はしっかりと浸透しているが、その中の“人間らしい生活”という言葉に疑問を持つ職員も多い。今後は職員全員で納得の得られる理念を検討されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学校の体育祭・文化祭に招待され出向いたり、お寿司などの外食へ出かけ、地域の一員として交流を計っている	事業所が地域交流の一環として、毎年秋に『さつきの里交流会』を開催している。地元住民が多数参加し、年々規模が拡大しており地域のイベントの一つになっている。また、中学校の体育祭や文化祭にも招待を受け利用者は喜んで参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験の学生や推進会議参加者、利用者様のご家族に症状の理解や認知症の様々な症状・対応方法などをお伝えさせていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、近況報告や地域での取り組みなどの意見交換を行い、利用者様の地域への参加の可能性を検討している	事業所の近況について報告して、事業所の取り組みを理解してもらっている。また、地域の参加者から高齢者の困りごとなど多くの質問もあり、事業所から返答するなど活発な意見交換の場となっている。会議で出された意見を参考に日々のケアにつなげている。	運営推進会議は、事業所について理解を得る大切な機会である。今後は参加者を固定せず幅広い分野に会議への参加を依頼し、参加者にとっても魅力のある会を年6回開催されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を通じ包括センター、地域の方々に実情・取り組みを伝え協力関係を築けるよう取り組んでいる	運営推進会議には主に包括支援センターが参加し、市職員の参加はないが、会議の議事録を提出し理解を得ている。また、職場体験の学生の受け入れや急な相談事があれば常に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一度の職員会議・推進会議などで身体拘束への理解・意識を高め安全を確保できる範囲で身体拘束をしないケアをしている	身体拘束については、家族の同意の下で安全確保のためにやむを得ずベットの柵を使用していた時期もあったが、今は該当者はない。指針を改正し、職員会議で2か月毎に議題を挙げ、身体拘束のないケアの実践を事業所の最も重要課題として取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の職員への意識付け、様々なケースのが虐待があることを理解し、穏やかに仕事ができる環境づくり、職員間の良好な関係を築くことで虐待防止につながっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の症状に合わせて、自立支援を支援している 成年後見制度について理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明をし、不安や疑問にもしっかり対応させていただいている。解約の際の相談も対応させていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見・苦情受付箱を設置しており、月1度は相談員に來所していただいている。家族様面会時には利用者様様子報告をさせていただく中で家族様の要望を聞かせていただいている	家族の面会時間は制限をなくいつでも来てもらえるようにしており、面会時に意見や要望を聞いている。また、毎月の請求書と共に月刊「さつきだより」を送付し、事業所での暮らしがよくなるかと喜ばれている。『さつきの里交流会』は、家族の交流会の場にもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の職員会議に施設長・事務長も同席し、日頃の職員の意見・疑問・改善案を書き出した物を議案にして会議を行っている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切に心がけ、職員の意見を聞き出しやすい環境づくりに努めている	月一度の職員会議に向けて職員一人ひとりが日々のケアの中での気づきや疑問点を書き出し、その議案に沿って意見を出し合い改善につなげている。年2回施設長が面談して思いを吸い上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与の際に施設長から勤務状態・評価の話が個々にある。勤務は職員の休日希望を聞き勤務表を作成している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修に参加してもらっている。研修後は職員会議の時間を使い職員に把握してもらい、日々の業務で生かせるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中学・小学校行事参加の際、他の施設との交流がある。おたっしや広場作品展示会運営会議に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談で要望・思いを伺うよう努めているが、ご本人が望んで入所される場合が少なく、認知症もあり、思いに添えているかはサービス開始し信頼関係を築いていく中で思いを模索しながら対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は必ずご家族との面会で困り事・不安・要望を聞き受け止めた上でケア方針などを話し合い信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症進行により入所希望される方も多く、他のサービスを進める事例は少ないが、困りごとや入所をためらわれたり、罪悪感を持つ家族もみえ慎重に状況を見極め、サービスを開始するよう考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に外出したり、レクや会話を楽しんだり、食事を共にして共有する時間を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時には近況報告はさせていただき居室でご本人とゆっくり時間を過ごされてみえ、フロアで過ごされるご家族様には同席させていただきながらケア方法など共有している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話所持の利用者様の着信を確認させていただき知人の方からの折り返し電話の支援している施設周辺地区の利用者様も多く、地域の小・中学校行事行ったり、地域の方を招待しての交流会など開催している	利用者によっては、家族・親戚・かつてのカラオケ仲間や友人の訪問がある。携帯電話を持って家族や知人と連絡をとることもある。また、市街の馴染みの商業施設に出向いて買い物や外食をする楽しみがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりが困難な利用者様は歌を歌や体操・レクの時に、他の利用者様と関わり合いを持っていただけるよう職員が間に入り支援している。おやつ・食事時だけフロアみえる方も体調がいい日には、参加していただけるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様の会話の様子から生活習慣を大切にケアを検討している	思いを伝えられる利用者にはなるべくその思いに沿った支援を心掛け、言葉の出ない利用者には推し量った情報を職員が連携をして共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所が長い利用者様多く生活歴は把握している事も多いが、会話を多く持つことを心掛け、不明な点があれば家族様に伺うことをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの食事・移動・排泄・言動に関わりを持ち、現状の把握努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意向やご本人の暮らしやすさなどを伺いサービス担当者会議等で話し合い計画を作成している	介護計画については、毎月のユニット会議でカンファレンスをし、3か月毎にモニタリング、家族の意向を加味して見直しをしている。高齢化により日々様々な変化が生じてくるため、観察をしっかりと行い利用者にとって最も適切な介護計画を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に詳しく記入し、日々の変化対応し、月1度のサービス担当者会議で課題を出し合い、計画書の見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態に応じて対応出来るよう、サービス内容を設定している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この地域の資源では、お茶などがあり地元飲み親しんだお茶などを提供している。おたっしや広場作品展への参加で地元ハンター店に展示し、やりがいを持てる取り組みをしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設時からのかかりつけ医は夜間・休日問わず対応可能となっており安心して医療を受けられるよう支援できている	利用者と家族の同意で、現在は全員が協力医をかかりつけ医としている。協力医は事業所から近く、月2回の訪問診療に加え、緊急時の往診も可能で24時間の安心に繋がっている。眼科・皮膚科などの専門医には家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師は不在だが、月2回の往診もあり施設連携病院の看護師も24時間・休日対応もしていただいている。隣接しているDSの看護師も協力してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院にお見舞いに行き、状況把握に努めたり、電話等でも病院担当者と情報交換、今後のケアについて話し合う時間を持っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化の方針については説明、理解の同意をいただいている。重度化・終末期に予測出来る状況などをご家族・職員・主治医と連携をとり、職員間でしっかり情報・状態を共有、把握し穏やかに看取りが支援できるよう取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の支援について説明をし、同意書を交わしている。実際に終末期を迎えた時には、改めて家族の方針を確認し看取り希望であれば、協力医と連携し看取り支援をしている。これまでに多くの看取りがあり、経験豊富な職員が最後まで利用者に寄り添い温かい支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的には行っていないが事例などを取り上げ話し合う機会を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は行っている。近隣の職員は駆けつける体制もあり、日中は近くの親会社に応援依頼できる体制がある。災害時には近隣施設の協力も書面で交わしている	年2回、主に火災による避難訓練を実施している。近隣に住宅が少なく地域の協力は難しいが、母体の倉庫の建物が最も心強い存在である。敷地内の倉庫に備蓄を保存している。また、近隣の3箇所の介護施設でお互いに災害時に助け合う同意書を交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に尊重の気持ちを持つ事を忘れず、強い口調・言葉使いには十分気をつけて対応できるよう心がけている	利用者の個々の生活歴や好みなどを理解した上で、尊重する言葉がけや対応をしている。若い職員には、利用者に合わせた言葉がけや会話の内容について指導することがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声をかけやすく、話しやすい状況を作りよう心がけている。伝わりにくい利用者様には、気長に声かけさせていただき、静かにゆっくり返事を待つように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりペースが異なるが、特に食事にかかる時間の違いがある、そのため、その方にゆっくり食事をしていただけるよう時間を変えて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に使っている、化粧水・クリームが違い、なくなる前には購入している。衣服は汚れたらその都度着替えていただき、外出の際はおしゃれな服をきていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごぼうのささがき・もやしひげ取りの食事準備を職員と一緒にしていただいたり、食事後の食器洗い・食器拭き等していただいている	昼食は隣のデイサービスから調理した料理が届き、朝夕は職員が食材の買い出しから調理までを行っている。時には回転寿司やラーメンなどを食べに外食することも利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量で提供し、介護記録で管理し食事量・水分量が少ない時はおやつ時や時間をずらして無理なく水分補給していただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕に歯磨き・うがいの声掛けをして、磨き残しがある時には介助させていただいている。夜間は入れ歯を預かり洗浄させていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみトイレ誘導を行い日中のパット使用を減らし自立にむけて排泄できるよう努めている。布パンツの方が3名みえるが尿失禁されることはほとんどない	利用者個々の排泄パターンを掴み、しぐさなどを観察して声掛けしトイレ誘導している。職員の見守りによって失敗も少ないため布パンツ利用者が増え、気持ちの安定につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、歩く時間を確保したり、トイレご廊下1・2周歩いていただいたり、工夫をして予防に努めている。排便確認がない場合は主治医の処方された薬で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助・見守りが必要なため、希望に添うのは難しいが、ゆっくり入浴していただける時間を作っている	週に3回、午前中に入浴介助している。冬場の皮膚の乾燥対策に苦慮していたが、有効なボディシャンプーを見つけて本社に掛け合い、購入してもらい改善されてきた。浴槽に浸かることが困難な利用者も職員2人で支援し、ゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファー・食卓テーブルで過ごされる方が多いが、個々に好きな場所。安心できる場所で過ごしておられる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の主治医の往診時には、症状を伝え薬の変更減量、増量など相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食行事の際、出かけられない利用者様にはお寿司の出前をとり楽しまれ、外出できる利用者様は気分転換になっている。日々の生活ではお手伝いしていただく事も多く役割りのある生活・張り合いある生活が出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と1カ月～2カ月に一度外出される方もみえ、楽しみにしている。天気のいい日には庭の散歩したり、外出行事を行っている	天気のいい日に玄関先に出て外気浴や日向ぼっこをしたり、敷地内の日本庭園を散歩している。車でドライブを兼ねた季節ごとの花見、買い物や外食を楽しみにしている利用者もある。年に一度、鈴鹿市の商業施設で開催される展示会『おたっしや広場』に、出品した自分たちの作品を観に行くことを楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設管理させていただき、本人・ご家族様が希望される場合に買い物の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方がみえるが、最近では電話をしたり・されたり事が困難になってきたが本人の希望があれば、職員がかけさせていただいたり、着信履歴の確認し着信があれば本人に声かけし電話していただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはバリアフリーで安心して移動していただいている。トイレ・浴槽も広すぎず家庭的に作られているソファも食卓テーブルもくつろげるよう配置を考え窓から見える山の景色も季節を感じる事ができる	共用スペースのリビング・廊下ともに大変広いスペースをとってあり、テレビの前には大型のゆったりとしたソファが置かれている。利用者は、一日のほとんどの時間をリビングで過ごしている。壁面には、みんなで作成したちぎり絵、毛糸や布で作上げた素晴らしい作品が数多く飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った、利用者様どうし同じテーブルに座って談笑されておられる。なるべく独りにならないよう工夫し、ゆっくりされる居場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物などお持ちいただく様、お話させていただいている。生活で必要になった物は、その都度ご家族に相談させていただいている。個々に写真・ぬいぐるみ等置かれその人らしい居室になっている	居室には、ベッド・クローゼット・エアコン・洗面台・カーテンが設備されている。その他の家具は利用者が家庭から使い慣れた机や椅子を持ち込んだもので、一人ひとり個性のあるしつらえになっている。どの部屋もスッキリと整頓され、清掃が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーで手すりの設置もあり出来るかぎり自力での移動が可能。シルバーカーがスムーズにおけるスペースの確保などシルバーカー歩行がスムーズに出来るよう考えてテーブル・椅子が配置されている		